

住居リフォーム（その４：キッチン（２））

４．キッチン床仕上のリフォーム

キッチンの床はコルクタイル調のクッションフロア仕上げとなっています。流し台はガス栓、排水口に接続されていることから、専門家でないと移動できません。そこで DIY でできる床のリフォームは流し台部分をそのままに、見えている部分のクッションフロア上に新しい床材料を張り重ねることです。両面テープで固定してカーペットタイルを置き敷きすることもひとつの方法ですが、ここではクッションフロアを張り重ねる方法（図１、図２）を紹介します。なお、不適切な床のリフォームは下階への騒音増大の原因となりますので、キッチンのリフォームでクッションフロアの張り重ねやカーペットタイルの置き敷き以外の方法をご検討の場合、管理組合にご相談ください。



図１ 既存仕上げ



図２ クッションフロア張替後

【作業手順】

クッションフロアは様々なデザインのものが販売されていますが、床にこぼれた水で滑らないように滑止めとなる凹凸のあるものからお選びください。必要な寸法は各住居で実測の必要がありますが、図２では 180cm 幅×3m を使用しています（衝撃音の低減の効果の高い 2.5mm 厚で 3000 円/m（ジョイフル本田調べ））。これに床用の接着材（ゴム系ラテックス形接着剤 CL-7N、セメダイン（株）、580 円）1kg 入りと接着剤を均等に塗るための櫛目のついた金コテ（30 円）、スティール定規、カッター、はさみ、両面接着テープを用意します。

- ① 冷蔵庫などをキッチンから出し、壁面の下に貼り付けたソフト幅木を剥がす。幅木は再利用のため洗う。
- ② 床面の汚れを家用洗剤で落とし、十分、乾燥させる。
- ③ クッションフロアを床面の形状に合わせてカットする。切断線が直線となるようにスティール定規とカッターナイフを利用する。細かい部分ははさみで切る。
- ④ 床の一番奥の方の 1/4 位の部分に接着剤を塗布し、所要時間待った後、クッションフロア材料の奥の部分に貼った後、一旦、全面にクッションフロアを敷いてみて、ずれがないか確認し、ずれがあれば張った部分を剥がして微調整して再度貼り付け、全体のずれがないことを確認する。そして残りの部分を歩く場所を確保しながら、何回かに分けて接着剤を塗布して所要時間待ち、クッションフロアを貼り込む。この時、クッションフロアと床の間に空気溜りができないようにしごいて空気を出しながら接着する。
- ⑤ 所定時間待って、クッションフロアが接着されたら、両面テープを用いてソフト幅木を貼る。